

四国中央市における 在宅医療の現状と報告

社会医療法人 石川記念会
石川病院

在宅医療連携拠点センター
センター長 田中 伸二



四国中央市の現状

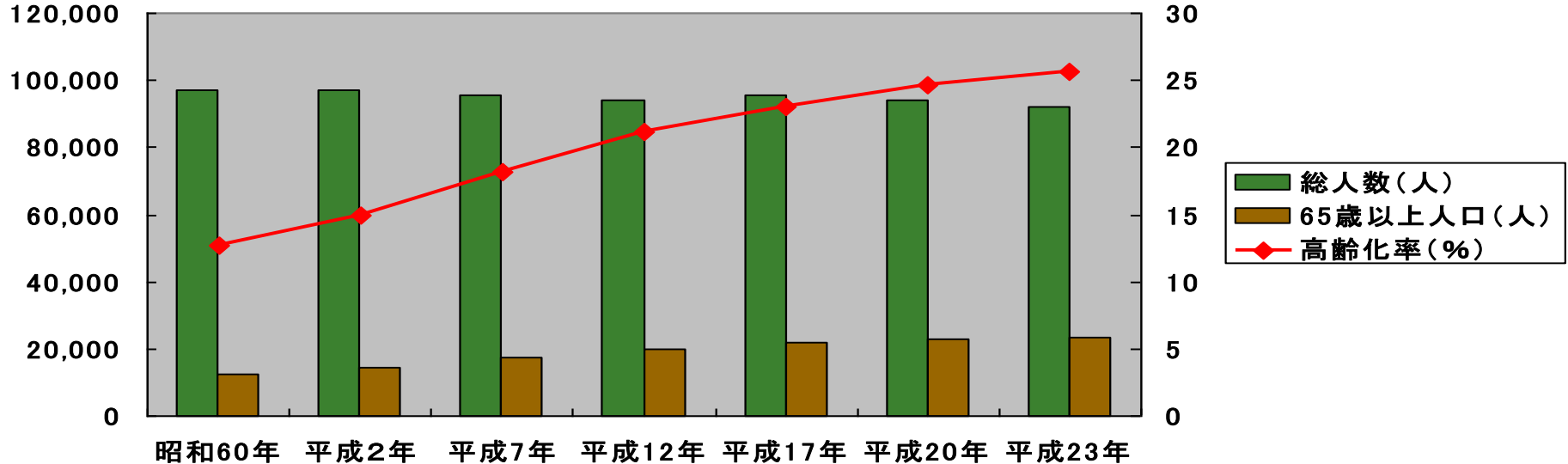
- 四国中央市も超高齢化社会と言われる段階になっており、平成22年度には、65歳以上が総人口に占める割合の25%を超え、いわゆる団塊の世代の方が65歳を超える、平成24年度以降は、高齢化の傾向はさらに強まると考えられます。

今後、さらに増加が見込まれる一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、認知症対策や高齢者を支える地域づくりが重要な課題となっています。

四国中央市の高齢化の状況

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成20年	平成23年
総人数(人)	97,005	97,157	95,658	94,323	95,546	93,870	92,272
65歳以上人口(人)	12,294	14,547	17,391	20,010	21,982	23,049	23,617
高齢化率(%)	12,7	15,0	18,2	21,2	23,0	24,6	25,6

四国中央市の総人数・高齢者人口



四国中央市における在宅医療の現状

四国中央市人口	約92,272人
65歳以上の方の人数	約23,617人
要介護認定者数	5,312人
H24年度要援護者人数	2,176人
H24年度訪問看護利用人数	167人
H25年度以降訪看利用待機人数	約 2,488人

※ 四国中央市の訪問看護事業所は5件
何らかの事情で、利用できないのが実情である

多職種連携会議の開催

第1回 四国中央市連携会議

- 本事業初となる四国中央市連携会議が開催されました。当日は、行政・医療・介護各方面から127名の方々にご出席頂き、在宅医療連携拠点事業の紹介と、四国中央市の在宅医療連携に関する課題について協議しました。
- 来賓のご挨拶や懇親会の会話の中でも、在宅医療には組織や職種を超えた連携が必要であり、協力していきたいとお言葉を頂きました。なかなか直接会って話す機会が無い医師や同じ職種の方たちとの、顔の見える懇親会を行う事が出来ました。



第2回 四国中央市連携会議

3つのワーキンググループを立ち上げる。

課 題

24時間切れ目の無い在宅医療体制を整備するために何をすべきか。

①医療・介護を結ぶ連携シート

②地域ガイドマップ作成

③災害時対策

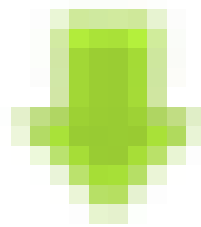


①連携シート作成WG

(参加者: 医師、地域包括支援センター、訪問看護ST、
脳卒中地域連携相談員、ケアマネ協議会)

病気をもちつつも可能な限り住み慣れた場所で生活できるよう、
医療と介護の連携は欠かせない。

24時間の切れ目のない連携のためにも市内で統一されたツール
が必要であると考える。



作成による
メリット

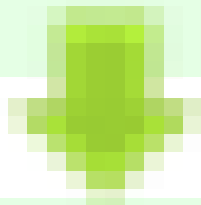


統一されたツールを使用することにより、入院の際でも
病院への情報不足を減らすことができる。退院後も
かかりつけ医、かかりつけ薬局への情報提供が行え
、安心して自宅での生活が可能となる。

②地域ガイドマップ作成WG

(参加者：医師、歯科医師、保健推進課、2次救急病院、調剤薬局
訪問看護ST、ケアマネ協議会)

四国中央市の地域ケア会議において、医療と介護それぞれとの連携を図る上で医院・歯科医院・薬局・訪問看護・居宅介護支援事業所、福祉施設などの各機関を一覧として取りまとめたものが十分ではなく、またその特徴を十分に把握できないことから連携が取りにくいとの意見があった。そのため誰が見ても各施設の機能や特色を把握できるものが必要である為、地域ガイドマップを作成することとなりました。



作成による
メリット



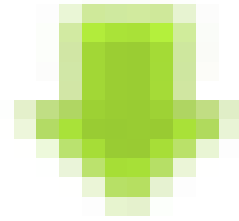
医療機関への連絡の際、医師の希望する連絡方法がわかるので連絡をとりやすい。施設により対応できるのか(胃瘻、感染症など)事前に把握できるため、対象を絞って検討することができることにより業務の効率化が図られる。



③災害時対応WG

(参加者: 医師、警察署、消防署、民生児童委員、調剤薬局、
2次救急病院、訪問看護ST、ケアマネ協議会)

警察・消防関係者、民生児童委員等と協働し災害弱者の把握
を行い、災害対策マニュアルを策定する。また、災害時の在宅
医療に必要な備品を整備する。



作成による
メリット



多職種との連携を図り災害対策マニュアルを作成し
周知することにより、災害時の四国中央市民の生存
率を上げることが可能となる。災害発生時、避難所運
営などの混乱を減少させることができると考える。

地域住民への普及活動としての講演会開催

- 認知症介護現場のお話や患者様やご家族をサポートするために医療・介護従事者が果たすべき役割についてお話がありました。
- 福祉用具の事業所3社合同で、カタログでの紹介ではなく、在宅介護の手助けになり、直接触れ、体験し安全に選択できる参加型講演会を実施しました。



在宅医療に携わる医療従事者の人材育成

- ①田中センター長による、都道府県リーダー研修の報告
- ②訪問看護や各施設合同の高齢者の看取りを考える会にて、多職種連携の大切さについての勉強会を開催



拠点の取り組みにより地域への効果

- 在宅医療に関して、顔の見える関係づくりの足がかりとなる物を作った。
- 地域に根付いたガイドマップや、在宅医療の資料作成の基礎は築けた。
- 災害対策に他方面から、協力して頂き地域全体が動きだした。
- 多職種連携により、発想や視点を見い出せ、対策を得る事ができた。
- 各WGにて協議した内容は拠点センター便りにて事業報告



まとめ

- 四国中央市連携会議を定期的に開催し、顔の見える関係づくりを継続させる
- 医療・介護を効率的に行える在宅医療のシステム構築
- 災害が発生しても在宅医療の地域を自分たちで守れる取組
- 在宅医療に関する講演会を開催し住民の方へ協力及び周知
- ※住みなれた地域で、安心して暮らし続ける事出来るまち作りを構築し、拠点事業を存続させていく。

ご清聴有難うございました。
